

# 関東リレーOB杯、関東学連リレー共に筑波優勝

3月に行われる全日本学生選手権の前哨戦であった関東学生選手権が新たに関東リレーとして生まれ変わり、学生以外にとっても重要な位置づけを持つ大会となる雰囲気である。もとも関東の学生向けに開催されてきた関東学連リレーであるが、オープン参加が可能になり、多学連のチームや強力な社会人チームも出走するようになってきた。しかし、あくまでも関東の学生チャンプを決めるという位置づけであった。

## 新に設けられたOB杯

それが関東リレーとなり、一般のチームも正規チームとして認められることになった上、OB杯が新たに設けられた、大変魅力的な大会となったと言える。そう、インカレで敗れ去ったランナー達にももう一度若い学生に混じり輝く機会が与えられたのだ。そして、やはりこのOB杯を目標に日本のトップクラスの選手達がチームを組み出走した。筑波、東大、早稲田、東北などインカレ上位を毎年争う大学のOBである。

OB杯が設けられる。この発表と同時にすぐに動き出したのは、インカレでは不本意な結果を残していると思われる筑波のOBだった。ここ数年、エリートシーンにおける筑波卒の活躍は著しい。今年は世界選手権代表予備セレクションに既に加賀屋、高橋、篠原の3人が通過しており、小泉もポイント15位以内の安全圏にいる。しかし、この4人、学生時に団体戦のインカレ優勝を経験することはなかった。

この強力なOBチームに対抗できるのはただ一つしか考えられなかった。それは村越、鹿島田と日本のオリエンテリング界をひっぱってきた二人のいる東大だった。この二人に昨年度東大準優勝の原動力であった加藤、そして西日本3位で世界選手権予備セレクション通過を決めた自分が加わり、これまた現時点全員エリートポイント15位以内でチームが組まれた。筑波勢とは対照的に加藤を除く3人も優勝経験がある。

## 東大対筑波の一騎打ち

東大のオーダーはすんなりと鹿島田、加藤、村越、山本と一時は決まったのだが、自分の個人的な理由から、山本、鹿島田、加藤、村越と組み直された。走順変更をお願いし、一走となったからには下手な走りは出来ないと、自分へのプレッシャーはあった。従って筑波の一走が小泉と聞いたときには、これは勝ってトップゴールしないといけない、と思い始めてしまった。もちろん、こういう気持ちはすぐに捨てるに越したことはないのだが、スタート直前まで意識していた。

もちろん、スタートしてしまえば、レースに集中するだけ。しかも、一番コントロールで難なく先行する展開になった。しかし、「あ、これは楽ちゃん、自分のレースをするだけ」と思ったのもつかの間、二番の脱出で既に小泉に出し抜かれていた。こんなときに一番危険なのは張り合って不要なミスをしてしまうこと。と、思いながらも3番で素晴らしいアタックで追いついた後、ついでに引き離そうと考え別のミスルートで4番に向かってしまった。当然引き離されたのは自分で、そのままの展開で2走、エースの鹿島田にタッチ。

その後、鹿島田の素晴らしい走りで一気に逆転するも、ペナが発覚。最後それでも、先行する加賀屋に村越が追いつき、素晴らしいデッドヒートがあり結果は別に会場も大いに盛り上がった。

1位	女子合宿	2:20:14
2位	筑波大学	2:22:07
3位	津田塾東女OG	2:26:32
4位	宮城学院女子大	2:28:56
5位	新生バカース	2:30:40
6位	千葉大A	2:34:36

第一回のOB杯を制した筑波は今回のメンバーの他、藤城、安良といったベテラン勢、今年卒業予定の佐々木など多くのメンバーが控え、来年も強力なチームを構成してくると思われる。一方東大は、高齢化が進み新たなメンバーもいない。鈴木、大西、といったあたりが復活してこない限り厳しくなると思われる。むしろ来年期待出来るのは紺野、安井と強力なメンバーのいる今回2位の早稲田と現役ながら

3位に入った東北大であろう。東北大OBは松澤という大エースがいながら、現役に敗北している。このチームに来年は堀江、禰洲の二人が加わる見込みである。

## 学生も筑波が男女優勝

さて従来の関東学連リレーは、OB同様、筑波大が昨年に引き続き優勝。2位は東京大学A、3位早稲田Aという結果であった。筑波は佐々木、小部が50分を切る快走。アンカー永井が1時間を超えるも、東大が主力を2チームに分散したため楽々と優勝を決めた。しかし、東北大には20分近く離された。

現役では東北大が圧倒的な強さを見せたと言える。堀江、禰洲の両エースが期待通りの走りをし、横山、濱田も50分を切るタイムである。ライバルと見られる東大の青木、久野、宇田川ショート入賞3人は今ひとつの結果に終わっている。また、京都は、エース西尾は良いとして、新宅の出来具合が心配である。

1位	筑波大学OB	2:54:57
2位	早稲田大学OB	3:09:17
3位	東北大学A	3:10:01
4位	東北大学OB	3:11:31
5位	筑波大学	3:29:01
6位	京都大学A	3:29:40

女子に関しては一般参加の女子合宿チームが優勝。現役筑波が健闘し2位、OGチームは津田塾東京女子のOLK連合チームが3位だった。女子のOG杯に関して言えば、同大学卒で3人集めることが大変だったようであり、今回も4チームしかエントリーしていない。今後の参加数増加に期待したい。

(山本英勝 [hidi\\_o@yahoo.co.jp](mailto:hidi_o@yahoo.co.jp))